

作物名	品種名	品種登録年月	交配組み合わせと品種の特性
水 稻	やまだわら	平成23年3月 (出願)	交配組合せ：泉348×関東192号 反収750kg以上の高収量が期待でき、関東・北陸以西において、外食・中食産業向けや冷凍米飯等業務用、醸造用掛米等に向く。
	ほしじるし	平成23年3月 (出願)	交配組合せ：関東199号×さとじまん 晩植適性と縞葉枯病抵抗性をもち、麦作後の栽培に好適。食味は「コシヒカリ」に近く、多収で直播栽培も可能なため、業務用米飯等に向く。
	もちだわら	平成24年2月	交配組合せ：北陸糯181号×北陸193号 米菓等加工用、飼料用。成熟期が「日本晴」より1週間程度遅いインド型の多収糯品種。耐倒伏性は強く、「日本晴」より30%程度多収である。
	あきだわら	平成23年3月	交配組合せ：関東188号×越南176号 温暖地で中生の多収品種。「コシヒカリ」に近い良食味で、品質は「コシヒカリ」並からやや良い。業務用米、低価格のブランド米としての利用が期待される。
	ミルクイスター	平成23年3月	交配組合せ：東北168号×ミルクプリンセス 温暖地で早生の低アミロース米品種。縞葉枯病抵抗性を有し、良食味で晩植で多収であるため、二毛作の麦跡栽培向け品種として期待できる。
	ミルクイサマー	平成23年3月	交配組合せ：和系243×ミルククイーン 「ミルククイーン」の遺伝的背景に出穂遺伝子 <i>Hd1</i> を含むインド型品種「Kasalath」の染色体断片約560kbを有する低アミロース米品種。出穂期は「ミルククイーン」と比較して温暖地では早くなり、亜熱帯環境では遅くなる。
	たちすがた (飼料用)	平成23年3月	交配組合せ：関東PL12×タカナリ 稲発酵粗飼料（ホールクロップサイレージ）用品種。茎葉重が大きく、TDN収量が多収である。中生熟期で埼玉県や群馬県などの稲麦二毛作地帯で飼料用として期待されている。
	モミロマン (飼料用)	平成22年9月	交配組合せ：西海203号×（西海203号×（西海203号×（IR65598-112-2×西海203号））） 飼料米用・稲発酵粗飼料（ホールクロップサイレージ）用品種。子実収量が著しく高いのに加えて、TDN収量も高い。耐倒伏性に優れ、直播栽培にも適する。
	関東HD2号 (コシヒカリ型中晩生品種)	平成22年3月	交配組合せ：((コシヒカリ×((コシヒカリ×Kasalath)×コシヒカリ)F ₂)×コシヒカリ)F ₃ ×コシヒカリ コシヒカリと99.8%同じゲノムを持つ中晩生品種。出穂はコシヒカリより10日遅く、食味・収量はコシヒカリ並で、玄米の外観品質はやや良い。
	関東BPH1号 (ヒノヒカリ型トビロウンカ抵抗性品種)	平成19年9月 (出願)	交配組合せ：((ヒノヒカリ×((ヒノヒカリ×IR54742(GSK178-5))×ヒノヒカリ))×ヒノヒカリ)×ヒノヒカリ ヒノヒカリと99.8%同じゲノムを持つトビロウンカ抵抗性品種。トビロウンカ抵抗性の実用品種としてはわが国唯一。食味・品質・収量はヒノヒカリ並。
	コシヒカリ関東HD1号 (コシヒカリ型早生品種)	平成21年7月	交配組合せ：(コシヒカリ×((コシヒカリ×Kasalath)×コシヒカリ)F ₃)×コシヒカリ コシヒカリと99.9%同じゲノムを持つ極早生品種。暖地の早期栽培地帯では、コシヒカリより3～7日早生でコシヒカリ並の食味・品質。
	リーフスター (飼料用)	平成20年3月	交配組合せ：中国117号×コシヒカリ 稲発酵粗飼料（ホールクロップサイレージ）用品種。TDN収量、特に茎葉の収量が高い。極長稈であるが耐倒伏性は高い。
	さとじまん	平成20年3月	交配組合せ：関東175号×越南154号 温暖地で中生熟期の極良食味水稻。「コシヒカリ」並に食味が良く、晩植栽培でも優れた食味と収量性を示す。神奈川県で奨励品種に採用。
	クサホナミ (飼料用)	平成15年3月	交配組合せ：アケノホシ×中国113号 稲発酵粗飼料（ホールクロップサイレージ）用品種。子実収量に加えて茎葉収量が高い。飼料としての品質も牧草並みに優れている。
ミルククイーン (低アミロース米)	平成10年5月	交配組合せ：コシヒカリのMNU処理による突然変異 低アミロースの良食味品種。「コシヒカリ」を越える米として茨城県を中心に南東北から九州まで広く栽培されている。でんぶんのアミロース含量は「コシヒカリ」の半分程度で、炊飯米は粘りが強く、冷めても固くなりにくい。	